

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社ニリア・バニー

1. 活動のテーマ

<テーマ>

落語の会(発表)3月8日

<テーマの設定理由>

・落語の会は、プロの落語家さん「笑福亭茶光」さんから落語を教えてもらい、その中でいくつか披露しやすい演目の中から自分が披露したい演目を選び披露するというものである。始めに竹芸能の茶光さんが園に来てくれて、始めはご自身の落語を披露してくれる。その後演目を決めていき、何回かに分けて練習を重ねて親御様に発表することになった。

2. 活動スケジュール

※3月8日は5歳児クラスだけのイベント「落語の会」を行う。落語はその際の保護者様へのお披露目イベント第2段として行う
※始めに一度茶光さんが来て下さり、落語を披露してくれる。その後、担任とクラスの子どもたちと題目を決めて落語の練習を開始する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・落語を始める前に、松竹芸能さんとどのようなプログラムで進めていくか、どのような落語が子どもだったらやりやすく覚えやすいか、数回にわたり打ち合わせを重ねていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・漫才同様、子どもが恥ずかしがって不安にならないように見守り応援する。練習の際、普段の時に落語の話題を話し、子どもの興味が継続するように配慮した。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

落語は漫才や他の芸能同様、場の空気を読んだり、機転を利かせて臨機応変に立ち振る舞わらなきゃいけない物だと考えている。今後必要になってくる自分で考えて動く力やコミュニケーション能力が落語を行うことで培われると考える。加えて日本に古くからある文化や伝統を知る事で、国や古き先人を大切に、敬い祖国を愛することにつながると考える。実際に茶光さんの話を聞き、あえてセリフは現代版にアレンジしたりしないとおっしゃっていて、ここに古き文化や伝統を守り受け継いでいく事の重さや大切さを感じることができた。子どもたちにも落語を通じて多くを感じ取り学んで欲しいと考えている。